

ライフサイエンス、環境等の研究開発の戦略的展開

科学技術基本計画の重点分野であるライフサイエンス、環境等の研究開発を戦略的に展開するとともに、食料自給率向上に向けた農業構造改革を支える研究開発の高度化を推進する。

12,009(10,294)百万円

1. ポイント

(1) イネゲノム研究等の先端的研究の展開

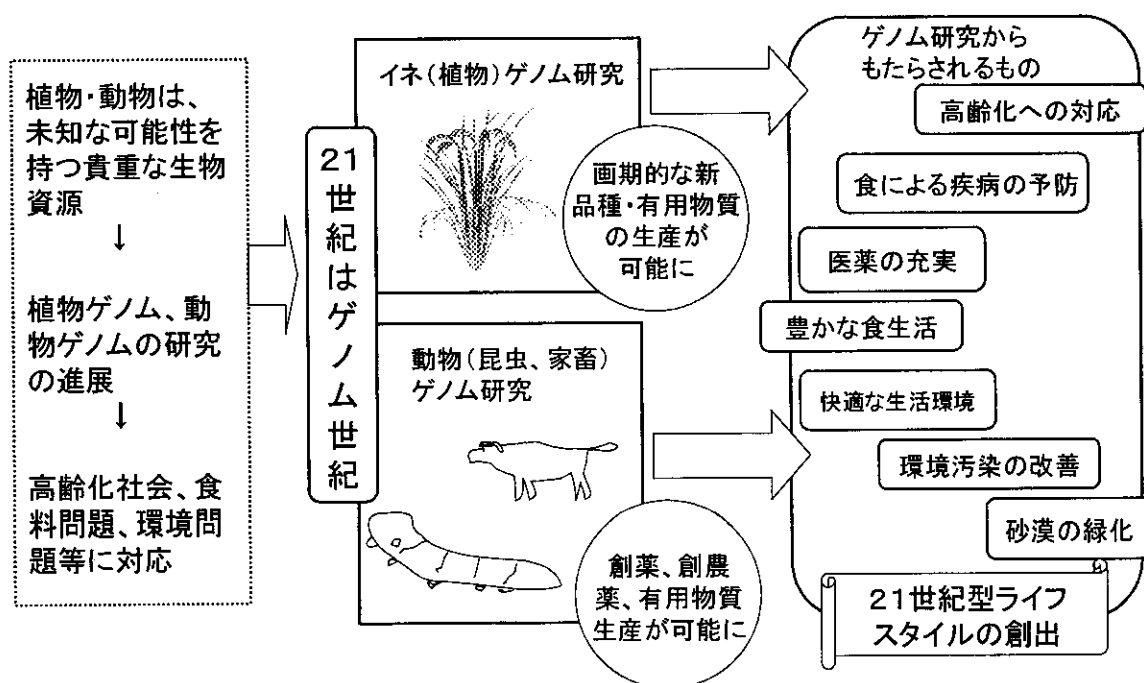
6,708(5,994)百万円

ライフサイエンスは、食料・環境問題の解決や健康で活力に満ち安心して生活を実現するために重要な分野として位置付けられている。

作物・食品研究の基礎である植物・動物のゲノム研究を幅広い知見を集めて効率的に進めることとし、塩基配列の解読と有用遺伝子の単離・機能解明を加速化するとともに、DNAマーカーによる効率的な新品種育成システムの開発、有用物質生産システムの確立等により研究の成果の実用化を図る。

また、先端技術の成果を迅速に社会に還元していくためには、国民の理解が不可欠であることから、国民の関心の高い遺伝子組換え技術等について、安全・安心確保のための科学的知見の更なる集積、国民の不安や懸念に応えるための適切な情報提供等の事業の強化を図る。

植物(イネ)・動物ゲノム研究



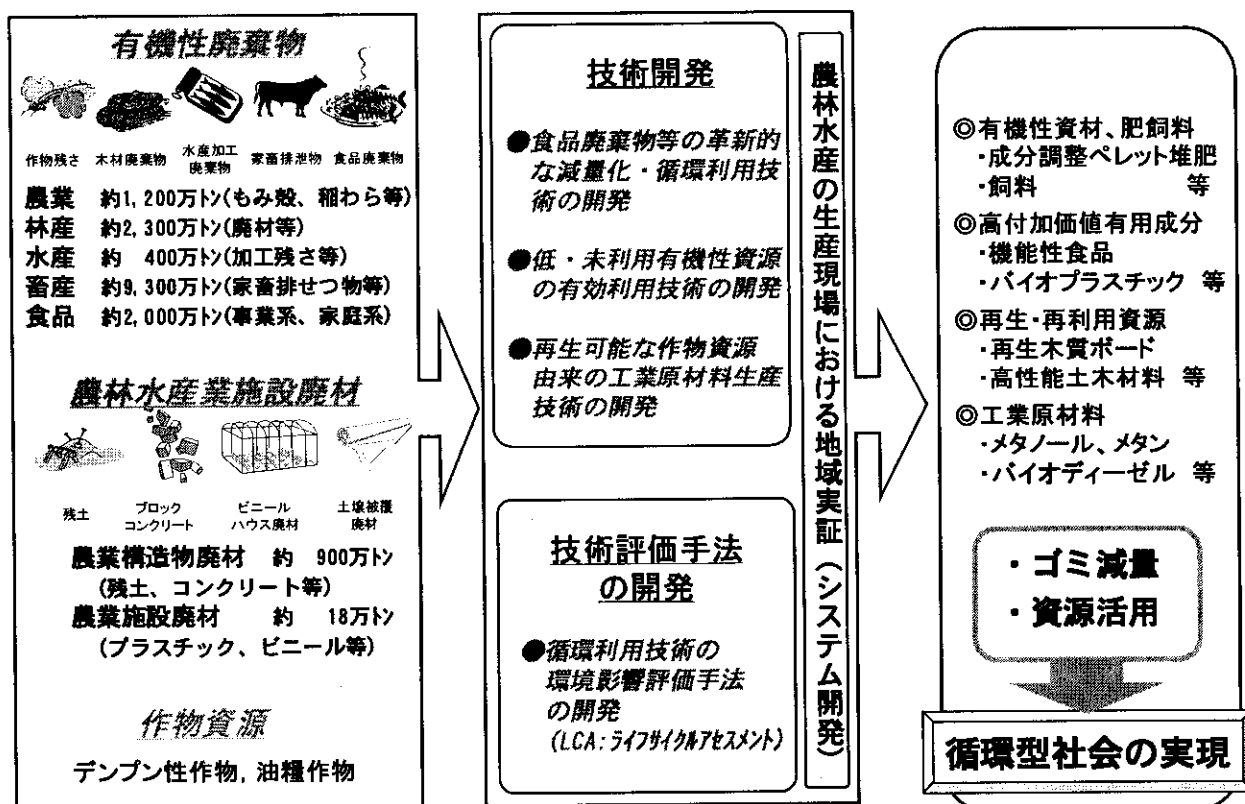
(2) 農林水産バイオリサイクルシステム創出等に向けた環境研究の展開

1, 703 (1, 345) 百万円

広域化・複雑化する環境問題に対応するため、ゴミゼロ型・資源循環型技術研究、地球温暖化対策等の環境分野の重点課題について、関係府省等と連携して以下の研究を推進する。

- ① 食品廃棄物等の革新的な減量化・リサイクル技術及び作物資源由来の工業原材料を生産する技術を開発する。
- ② 地球温暖化が農林水産業に与える影響を評価し、影響の予測技術及び農林業における温室効果ガスの排出削減・吸収・固定化技術を開発する。
- ③ 流域圏における水循環・農林水産生態系の自然共生型管理技術を開発する。
- ④ 内分泌かく乱物質の動態及び作用機構の解明を行うとともに、分解・無毒化等による影響防止技術を開発する。

農林水産分野におけるゴミゼロ型・資源循環型技術研究

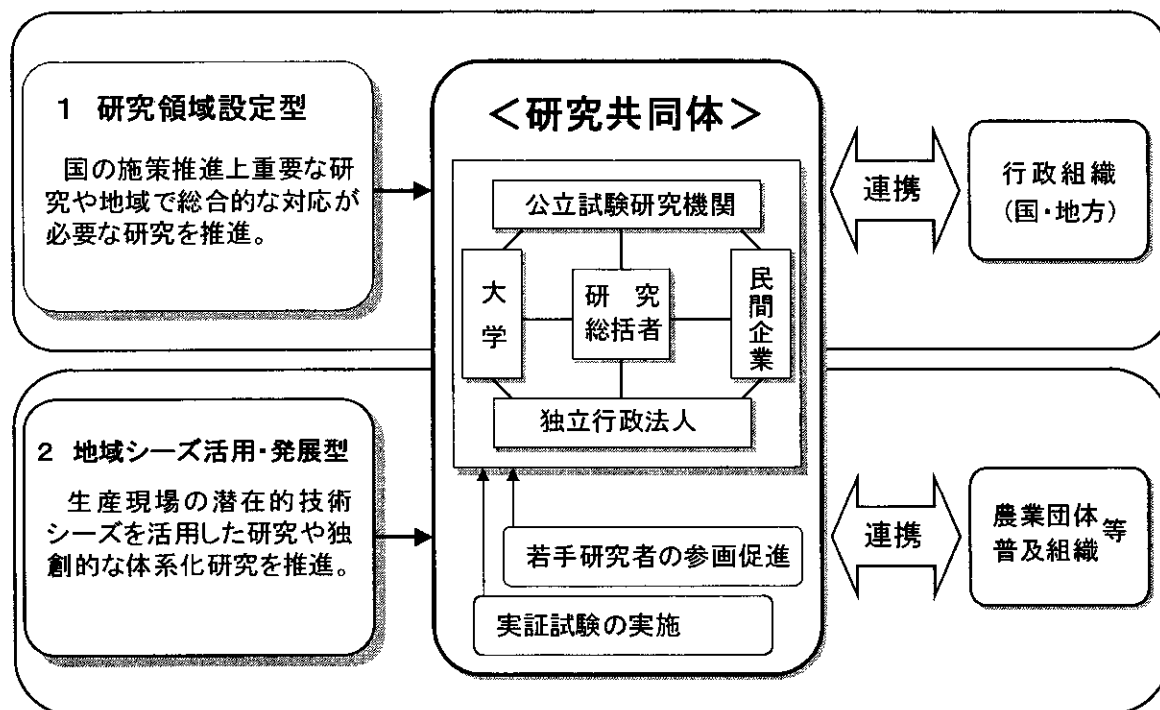


（３）食料自給率の向上に向けた農業構造改革を支える研究開発の促進

１，８０８（１，６４１）百万円

行政ニーズに的確に対応し、地域の技術シーズを活用した農林水産分野の研究開発の推進、研究成果の現場への迅速な還元等を図るため、公募によって、産学官連携による優れた発想を活かした質の高い研究開発を促進する仕組みを創設し、農林水産業の構造改革、地域の科学技術の振興に資する。

先端技術を活用した農林水産研究高度化事業



（４）その他

１，７９０（１，３１４）百万円

活力ある長寿社会の実現に向けて生活習慣病の予防等健全な食生活を構築するため、食品の機能性・安全性に関する総合研究を推進する。また、異分野の融合による新たな分野の開拓を目指し、生物機能の革新的利用のためのナノテクノロジー・材料技術の開発等を推進する。さらに、民間の研究開発能力を結集して、農林水産関連分野における新産業の創出を図る。

２．事業実施主体

農業技術研究機構ほか独立行政法人、大学、民間等

[担当窓口課：農林水産技術会議事務局総務課]